

第二次地球温暖化対策実行計画の概要

1 計画策定の背景

「パリ協定」の採択を受け、我が国は地球温暖化対策を総合的かつ計画的に推進するため、平成 28 (2016) 年 5 月に「地球温暖化対策計画」を策定し、2030 年度に 2013 年度比で温室効果ガス排出量を 26%削減することを目標に掲げ、国民・事業者等も含めた取組の推進をはかっています。

自治体の事務事業は『業務その他部門』に区分され、その削減目標は、平成 42 (2030) 年度に平成 25 (2013) 年度比で 40%削減となっており、非常に大きな削減が必要です。

2 計画期間と基準年度

計画期間	5 年間 平成 29 (2017) 年度～平成 33 (2021) 年度
基準年度	平成 27 (2015) 年度

3 対象とする温室効果ガスと瑞穂町の排出量

削減対象とするガスの種類	平成 27 年度排出量 (kg-CO2)
① 二酸化炭素 (CO ₂)	2,526,928
② メタン (CH ₄)	110
③ 一酸化二窒素 (N ₂ O)	2,754
④ ハイドロフルオロカーボン (HFC)	1,130
合計	2,530,922

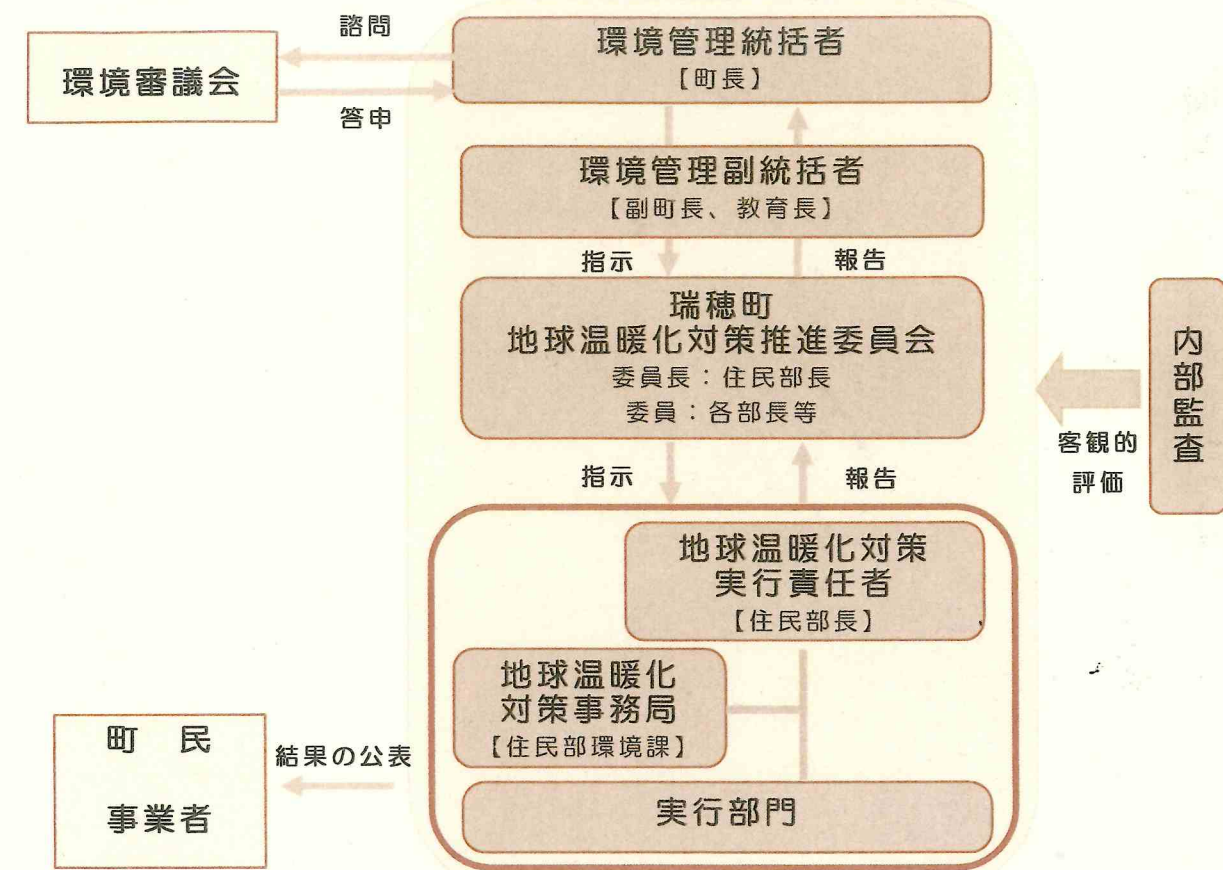
4 温室効果ガス総排出量削減目標

削減目標	基準年度 (平成 27 (2015) 年度) 比で平成 42 (2030) 年度までに 34%削減 (860,513 kg-CO2)
中間目標	基準年度 (平成 27 (2015) 年度) 比で平成 33 (2021) 年度までに 10%削減 (253,092 kg-CO2)
年間の削減の目安	平成 33 (2021) 年度までに毎年度 2%削減 (50,618 kg-CO2)
参考国の目標	基準年度 (平成 25 (2013) 年度) 比で平成 42 (2030) 年度までに 40%削減

5 削減のための取組方針

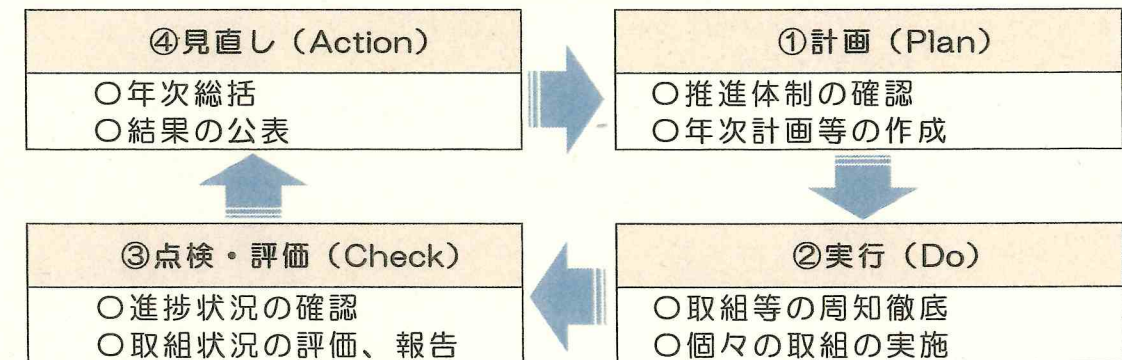
- 取組方針 1 : 環境配慮型の設備機器の積極的導入
- 取組方針 2 : 設備機器の保守管理と運用改善の推進
- 取組方針 3 : 日常業務に関する取組の継続
- 取組方針 4 : カーボンマネジメントシステムの導入

6 推進体制



7 進行管理

計画の進行管理の仕組み (PDCAサイクル)



8 その他

省エネ診断の結果

施設名	平成 27 年度 CO ₂ 排出量	診断結果		設備更新による改善効果
		主な運用改善	主な設備更新	
スカイホール	212,509	空調稼働時の気密性向上 交互運転や間欠運転、時短	—	—
瑞穂中学校	159,077	高効率型蛍光灯への交換 効率的な換気の実施	照明設備 空調設備	21%
元狭山コミセン	39,386	温度と湿度の適切な調整 表示の明確化	—	—